

4

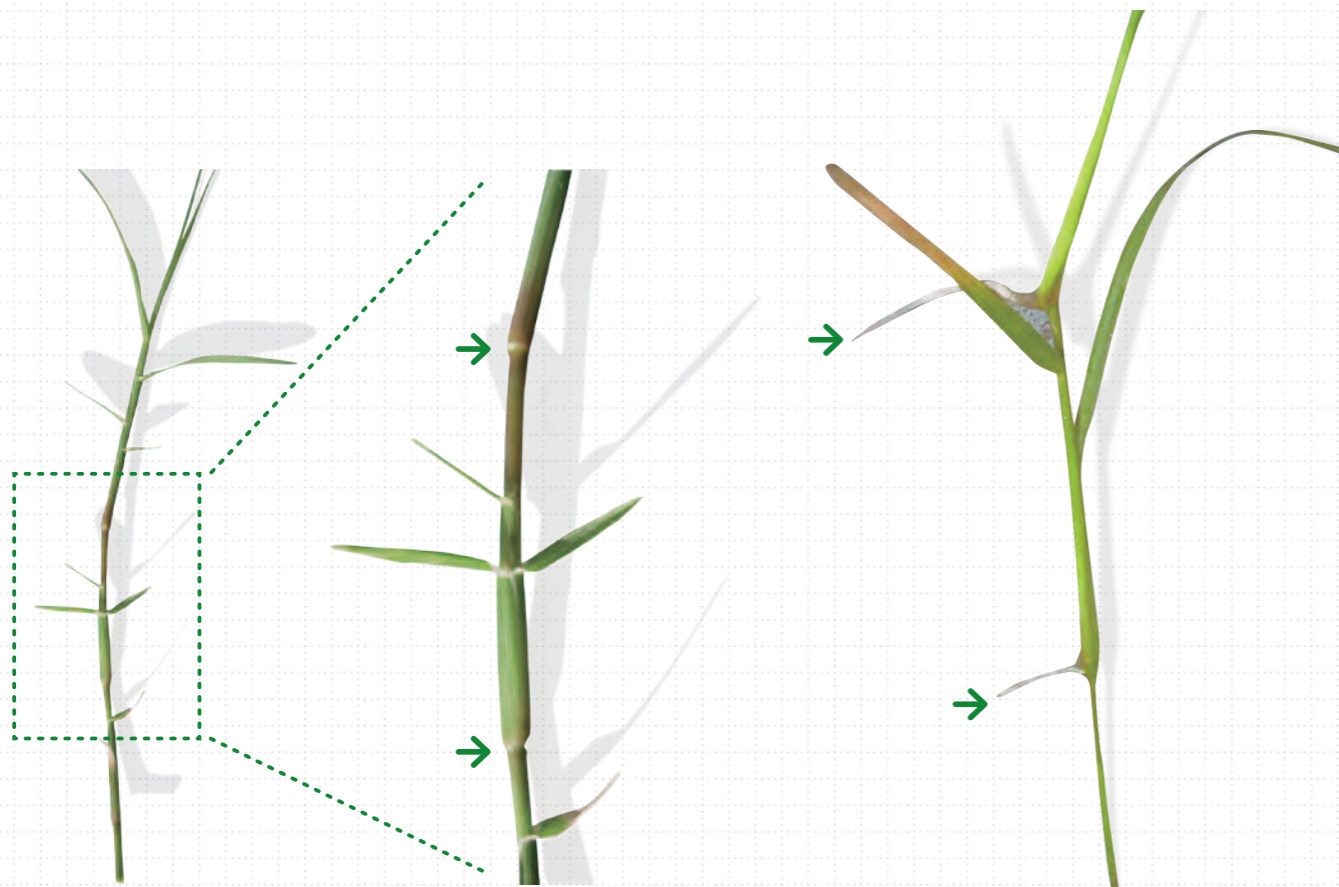
夏芝の補植

4-1 夏芝の補植とは

夏芝の補植とは、芝生の傷んだ部分に対して、夏芝の苗などを植えることにより、回復を促進させる活動のことをいいます。気候条件により、東京都内の芝生は、夏芝がベースとなります。夏芝の状態を良好に維持することで、冬芝の種まきもうまくいくようになります。

1 夏芝の補植の基礎知識

- パミュダグラス、ノシバ、コウライシバなどの夏芝は、節から根を出すことができます。
- 特にティフトン419などのパミュダグラスは、発根や生長が速いため、補植活動に向いています。
- 夏芝の生育サイクルは、どの種でもほぼ一緒なので、ノシバやコウライシバを利用している学校・幼稚園でも、パミュダグラスを使って補植しても、全く問題はありません。



パミュダグラスの茎を切り出した状態

矢印の部分が節

パミュダグラスの茎を水につけておいたもの。夏であれば、2日間程度で発根します。

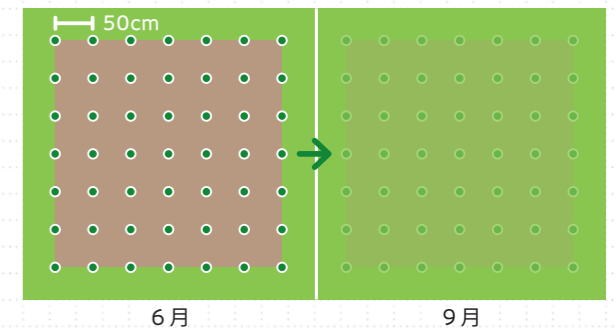
4-2 ポット苗補植

ポット苗補植とは、小さなポットで育てた苗を、一定間隔で植え付け、広がらせて回復させる手法のことです。子供たちやボランティアの方々でも取り組めるため、現在、都内の多くの学校で、「ポット苗補植」による補植が行われています。

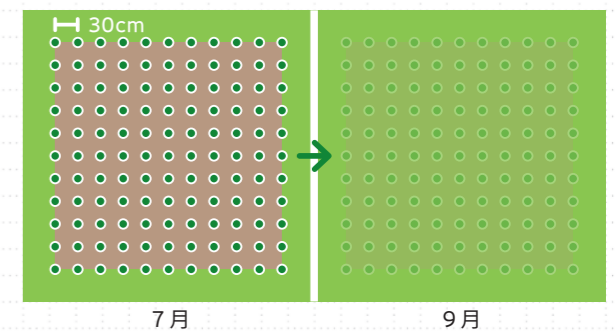
● ポット苗の作成個数

- 植付け間隔の目安
(夏休み明けに全面被覆が期待できる間隔)

6月中旬に植え付ける場合は50cm間隔

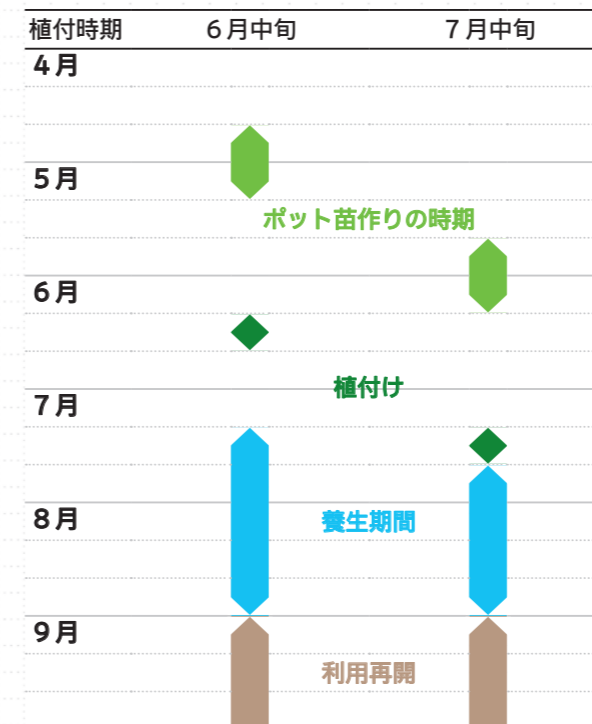


7月中旬に植え付ける場合は30cm間隔



1 ポット苗補植の計画

● 標準的なスケジュール



※ 6月中旬植付けの場合は、ゴールデンウィーク中のポット苗への散水を忘れずに行いましょう。

● ポット苗作り・植付けの時期

- ポット苗補植には、生長力の強いパミュダグラスを使います。
- ポット苗の植付け日の1～2か月程度前に、ポット苗を作ります。

● 養生の計画

- 植付け直後は、ポット苗が抜けてしまうような激しい運動は避けましょう。
- ポット苗から、ほふく茎が伸び始めたら、養生をとりましょう。

● ポット苗必要個数の算出方法

植付け対象エリアの1辺の長さ
÷ 植付け間隔 ÷ A

植付け対象エリアのもう1辺の長さ
÷ 植付け間隔 ÷ B

→ポット苗必要個数 = A × B

● 100㎡ (10m × 10m) に補植する場合のポット苗必要個数

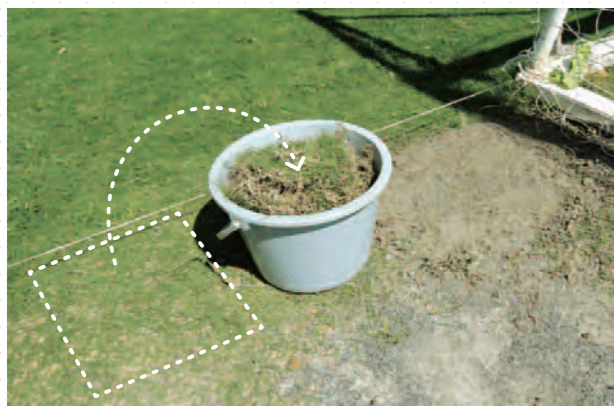
6月中旬 植付けの場合	10m ÷ 0.5m ≒ 20個 (列) 20個 × 20列 = 400 個
7月中旬 植付けの場合	10m ÷ 0.3m ≒ 33個 (列) 33個 × 33列 = 1,089 個

※ ポット苗を早めに植え付けると、植え付ける個数を減らせる、冷夏や日照不足などの状況になっても回復させやすいなどのメリットがあります。

2 ポット苗作りの材料

● バミューダグラスの苗作り

- ① はみ出した芝生をスコップなどで掘り取ります。この時、土をしっかりと落とすと、掘りとした場所が凹みません。



- ② 水で洗って適当な大きさにちぎります。※「ほぐし苗」、「ストロン苗」などの名称で、販売もされています。



● 様々なポット

- 25穴連結ポット。ポット苗を大量に作る時に適しています。大きさは、1枚当たり30×30cm程度です。

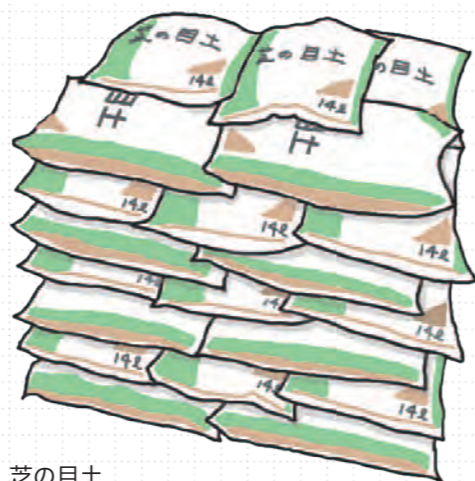


- ビニールポット。他にペットボトルを切ったものでも代用できます。



● 土壌

- 園芸用の土壌、砂場の砂など、様々なものが使えます。
- 砂でポット苗を作る場合には、水がれしないように、頻りに散水をする必要があります。
- 保水性の良い土壌として、「芝の目土」などの名称で販売されている土壌があります。



芝の目土

3 ポット苗の作り方

- ① 土壌を入れます。



- ② 土壌を伸ばして平らにします。



- ③ 苗を押し込んでいきます。割っていない割り箸を使用すると便利です。



- ④ 肥料を軽く散布します。



日当たりの良い場所に移してから、たっぷりと散水して完了！

- 苗を深めに押し込むと、よいポット苗に仕上がりがよくなります。
- ビニールポット利用の場合には、下の水抜き穴を不織布やティッシュなどでふさぎましょう。その際、事前にティッシュを濡らしておくと、土壌を入れてもズレにくくなります。
- ペットボトル利用の場合には、底に水抜き穴を必ず開けましょう。



水抜き穴をティッシュでふさぐと、土壌がこぼれません。

4 ポット苗の育て方

- ポット苗は、日当たりの良いところで育てます。日当たりの悪い場所で育てると、根が張るのが遅く、植え付けても弱いポット苗になってしまいます。
- 散水は、毎日行ってください。ポットには、水抜き穴があるので、水のやり過ぎを心配する必要はありません。
- ポット苗育成時にも、芝刈りを行うと、ほふく茎が出やすいポット苗に仕上がります。



よく育ったポット苗。根が十分に回っているので、取り出しても崩れません。

5 ポット苗の植付け方

● ポット苗の植付け場所の決め方

トンボに植付け間隔の幅で釘を打ち、地面に目印をつけていく方法



ラインパウダーなどを使って格子状に目印をつけていく方法

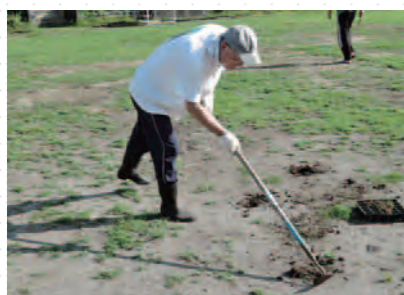


噴霧器を利用して、芝生用の水性ペイントで目印をつけていく方法



● ポット苗の植穴の掘り方

- 子供たち自身がポット苗の植穴を掘る場合、移植ごてを利用するケースがほとんどです。
- 1,000ポット以上などの大規模な植付けの場合は、写真のような道具を使うと、植穴掘りが効率化でき、時間も短縮できます。



三角ホー。25穴連結ポットで作った苗には、ちょうどよい大きさの植穴が掘れます。



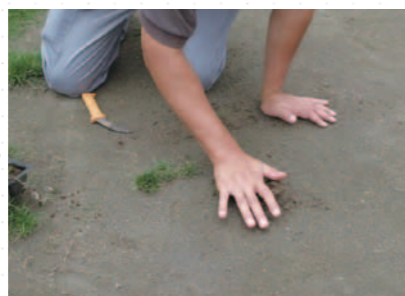
小型ホールカッター



エンジンオーガー

● ポット苗の植付け方

- ポット苗の取出し。ポットから苗を取り出す前に散水しておく、ポット苗が崩れにくくなります。
- ポット苗を植穴に置き、上から手で圧着します。植付けが甘いと、枯れやすくなります。
- 植穴掘りで生じた土壌を崩して上から降りかけます。



6 ポット苗植付け後の管理

- 植付け後、2週間は毎日、土壌の乾き具合によっては、日に2回散水してください。
- 植付けから1～2週間後を目安に、上方に伸びている茎を芝刈りすると、横に伸びる「ほふく茎」が出やすくなり、回復が早くなります。

7 ポット苗補植による芝生地回復例

● 植付け前



● 回復後



4-3 ホールカッターによる補植

- 芝生のほ場や生育が良好な場所からホールカッターで芝生の塊を抜き取ります。補植地でもホールカッターで塊を抜き取り、そこへ芝生の塊をはめ込む補植方法です。
- 生育良好地から芝生の塊を抜いた場合には、砂で埋め戻しておけば、回復します。
- 移植する芝生の塊が大きめであるため、活着率が非常に高いことが最大のメリットです。
- 移植する芝生の塊の高さと植穴の深さを合わせると、真っ平らに整地することができます。
- ホールカッターがない場合は、スコップなどで芝生の塊を切り出しても同じ効果が得られます。



① 生育良好地から芝生の塊を抜き取ります。



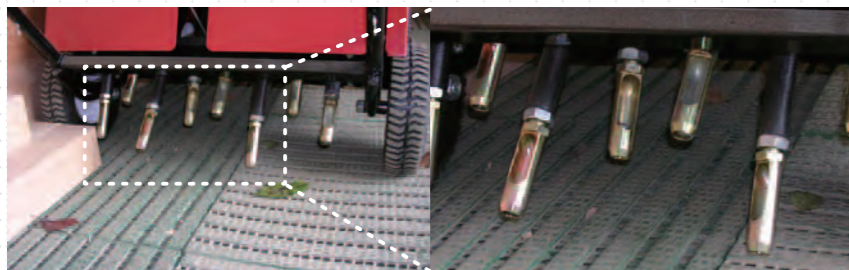
② 芝生の塊をはめ込む前に、芝生の塊の高さと、植穴の深さを合わせます。



ホールカッターがなくても、芝生を塊で切り出して移植すれば、同じ効果が得られます。

4-4 エアレーションにより生じる芝生の塊を使った補植

- エアレーションを実施した際に生じる芝生の塊を回収し、補植地へばらまき、圧着する方法です。
- 補植地を事前にほぐす、改良土を加えるなどすると、活着率がより高まります。



① 自走式エアレーター。中空タイプのアレータータイン



② エアレーションにより発生する芝生の塊。これを回収します。



③ 補植地を事前にほぐす、改良土を加えるなどします。



④ 回収した芝生の塊を補植地にばらまきます。



⑤ 芝生の塊を踏んで圧着します。

4-5 その他の補植方法

1 簡易補植

- はみ出した芝生などを掘り取って、移植地にカマや移植ごてで溝を掘り、そこへ芝生を押し込む方法です。
- カマや移植ごてさえあれば、いつでも誰でもできる補植方法です。小規模なスポットに対しては、日頃から簡易補植を行うことで、回復を早めることができます。



① はみ出しているパミュダグラスを掘り取ります。↓



② 補植地にカマなどで、溝を掘ります。↓



③ パミュダグラスを溝に押し込みます。この時、深く押し込むことで、根の深い芝生となります。

2 夏芝の種まき

- パミュダグラスには、種として販売されている品種があります。これを散布して、芝生地を回復させる方法です。
- パミュダグラスの種まきは、6月中旬から7月中旬にかけてが適期です。種まきの方法は、冬芝の種まきと同様です。
- パミュダグラス種子の散布量の目安は、1㎡当たり10～15gです。
- 種まき後には、1～2か月程度の完全養生が必要な場合があります。
- 発芽直後は、乾燥に非常に弱く、かつ暑い時期であるため、種まき後の散水管理が非常に重要です。1日に3回、暑い日にはそれ以上の散水が必要です。これを怠ると、全滅する恐れがあります。



肥料散布機によるパミュダグラスの種まき

3 その他の補植方法の違い

方法	メリット	デメリット
簡易補植	少人数でも実施でき、手間が掛からない。	ポット苗補植に比べると活着率がやや低く、養生に時間を要する。
夏芝の種まき	作業自体は少人数でも実施できる。	1～2か月程度の完全養生が必要な場合がある。種をまく時期が高温下のため、乾かさないう散水管理に特段の注意が必要。